

自然災害の島に暮らす

日本中が自然災害で手ひどい被害を受けています。お亡くなりになった方々にはお悔やみを申し上げるとともに、被災をされた方々にお見舞いを申し上げます。

CO₂ 排出と地球の温暖化、さらには気候変動の間の直接的な因果関係については、専門家の間でも諸説があり、議論が尽きないようですが、明らかに従前とは異なる気候であることには疑いの余地はないでしょう。

環境と経済は二律背反だと思ひ込み、その相反する2つの妥協点を求めていくというスタンスでその落としどころを探してきたのが今までの企業活動だとすると、その手法はもう役に立たなくなりつつあるのかも知れません。なぜなら、このままでは地球はもう持たないかも知れないから。日本だけではなく、世界各地での、不安を通り過ぎ、恐怖さえ感じる今日この頃の出来事ですから。

いっそ逆手にとって、環境対応を新たなビジネスチャンスとして積極的に捉え、しっかりと儲けにつなげていくというしたたかさが必要なのではないかと思います。結果として、CO₂ が減り、温暖化が緩和し、自然災害が減り…という好循環が生まれればいい。

私たちのような地域の中小企業、小規模事業者は、必要とされる商品、サービスを提供し、雇用を創り、地域の人を雇いお給料を払うことで地域の暮らしに貢献しています。最近話題に上ることが多くなってきた SDGs（「持続可能な開発目標」と訳される、国連で2015年に日本を含む世界193か国が賛同した世界共通の社会目標）の17項目の169のターゲットを見ていくと、きっと御社にも、「この項目、うちの会社も結構ガンバっているじゃないか！」とか「頑張れそうだ」というものが見つかると思います。それをさらに磨き込んで世の中に発信することで、自社のファンを増やし、自社の商品サービスを買ってくれる顧客を増やすことにつながっていく可能性もあると思います。

CSR（企業の社会的責任）という言葉があります。ともすると、利益の一部でアート、スポーツ、文化などの活動を支援するということかと思われがちです。もちろん、それも素敵な活動ですが、本来の企業の社会的責任とは、本業を通じて社会に貢献する（例えば、お客様の困りごとを解決するとか、お客様に生きる喜びや勇気を与えるとか、社会の課題を解決するとか、）ということだと思います。

また青臭いことを！と言われてしまうかも知れませんが、今一度、自社、自店は何を以てして、社会に貢献するのかを真剣に考え、できることから取り組み始め直すことが、案外、この気候変動の解決の一助になり、同時に自社の持続可能性を広げることになるかも知れません。人手不足、売り上げ、資金繰りと目の前の課題に忙殺される毎日ですが、あまりに頻発する自然災害のニュースに触れ、そんなことを考えています。

会頭 鈴木悌介